

農林水産部

平成15年度「統計の日」農林水産大臣感謝状伝達式を開催

去る10月20日、那覇市おもろまちに開設された那覇第2合同庁舎において、農林漁業関係者多数の臨席の下に、「平成15年度農林水産大臣感謝状伝達式」が挙行されました。

伝達式においては、冒頭、私市沖縄総合事務局次長の代読で、沖縄総合事務局長から受賞者の永年にわたる協力に対する謝意が表され、引き続き本島地区の農家19名の方々に農林水産大臣感謝状が伝達されました。

また、併せて農林水産統計情報業務に1年以上にわたってご協力を頂き、他の模範となる農家等に対して沖縄総合事務局長感謝状が授与されました。



なお、宮古及び八重山地区においては、それぞれ10月21日と22日に各地区の統計・情報センターにおいて伝達式が挙行されました。



財務部

米州開発銀行（IDB）ラテンアメリカ・セミナー ～2005 沖縄総会に向けて～

去る10月24日、米州開発銀行（IDB）ラテンアメリカ・セミナーが那覇市旭町のおきでんふれあいホールで開催されました。

これは2005年IDB沖縄総会のプレイベントとして、県民に対してIDBやその活動内容、日本のIDBや中南米地域に対する貢献の状況などを紹介し、県民挙げての受入体制をつくり上げていくためのものです。

今回のセミナーでは、IDB地域統括局長のノーラ・レイ・デ・マルランダ氏によるラテンアメリカ諸国の現状とIDB及び日本の貢献についての基調講演に加え、中南米にゆかりのある県関係者としてペルー出身で県系3世の仲宗根マリア氏、「世界ウチナンチュ紀行」の制作で知られる沖縄テレビ報道制作局長の前原信一氏、国連ラテンアメリカ経済委員会等に勤務した経験を持つ沖縄キリスト教短期大学教授の野崎茂氏から、自身の経験を交えて沖縄と中南米との関わり、IDB総会に寄せる思いなど多岐に渡る興味深い講演がありました。

200人以上とほぼ満席近く集まった参加者は熱心に講演に聞き入り、セミナーは盛況のうちに終了しました。今後も、来年3月のリマ総会での沖縄紹介のためのプレゼンテーションやその後のプレイベント等を通じて県民全体の一層の盛り上がりを醸成していくこととしています。



総務部

茂木敏充 沖縄及び北方対策担当大臣が就任後初来沖

茂木敏充 沖縄及び北方対策担当大臣が就任後初めて、10月4日から5日の日程で来沖されました。

茂木大臣は、4日の午後10時30分に那覇空港に到着し、翌日の5日朝、国立沖縄戦没者墓苑と大臣の出身地である栃木県の慰霊碑「栃木の塔」を参拝するとともに、平和の礎及び沖縄平和祈念堂の視察を行いました。その後、恩納村に移動し、沖縄科学技術大学院大学建設予定地の視察を行いました。

このほか、午後には、稲嶺沖縄県知事及び伊良皆沖縄県議会議長との懇談、翁長沖縄県市長会会長をはじめとする市町村4団体代表及び各圏域団体代表との懇談、仲井真沖縄県商工会議所連合会会長をはじめとする経済団体代表との懇談、県内マスコミ各社との懇談を行い、宜野湾市の嘉数高台公園から普天間飛行場の視察、沼田特命全権大使（沖縄担当）との懇談後、ゆいレールに乗りし、県庁前駅から那覇空港駅まで移動され、午後8時発の飛行機で帰任されました。

茂木大臣は沖縄総合事務局幹部に対し訓示を行い、「復帰後30余年が経過し、沖縄が新たな発展の基盤を築いていく重要な時期に担当大臣に就任することとなり、県民の皆様の夢や希望を一步一步実現するよう全力を尽くす。」と表明し、「沖縄総合事務局は、地域社会と国とを結ぶ重要な役割を果たしており、現場の状況をいち早く中央に伝えとともに、課題に対し臨機に的確かつ適切に対処するよう業務に精励いただきたい。」と述べられました。



運輸部

平成15年度
船員労働安全衛生月間の実施

陸上労働者に比べて発生率の高い船員の災害（陸上の約5倍）や、疾病（特に近年割合が高くなっている生活習慣病）の防止について、船舶事業者及び船員の意識を高めようと、9月を船員労働安全衛生月間とし、各種の行事を展開しました。

まず、9月1日に沖縄県水産会館において船員、船舶所有者、行政機関等100名余の参加のもと船員災害防止大会が開かれ、船員をとりまく厳しい状況下において、災害の絶無と健康の維持を更に推進していこうとする大会宣言がなされました。

この後、「SARSより禁煙、AIDSより肥満防止」の演題で那覇検疫所 所長内藤誠氏による特別講演が行われました。

このほか、会場には、作業用救命衣、安全靴、救命浮環等、船員の保護具の展示場も開設され、年々機能が増している保護具に参加者らの関心が集まりました。

また、月間中は、訪船指導員が、県内各港に停泊中の船舶を訪れ、海中転落事故を防ぐための舷梯（岸壁と船舶を結ぶ梯子）の設置状況、飲用水の水質等、数十の項目についての点検指導を行いました。

さらに、9月17日には遭難時に生存するための教育訓練として、サバイバルトレーニング講習会が開催されました。



膨張式救命筏を展開させてのサバイバルトレーニングの光景

開発建設部

平成15年度
全国道路標識週間の実施

道路標識の充実と利用者の利便向上を図ることを目的に、平成15年10月1日～7日まで各道路管理者、公安委員会の協力のもと全国道路標識週間を実施しました。

今年の活動は、ポスター掲示、ラジオ放送、道路情報板、電光掲示板等による広報、活動でリーフレット配布、沖縄県庁1Fロビーと道の駅「許田」にてパネル展示を行ないました。

また、関係道路管理者から構成される道路標識適正化委員会にて道路利用者の立場に立った道路標識の適正化を図り、わかりやすい道路標識の整備に向けて調整検討を行なっております。

なお、道路標識・表示に関する一般の方からの意見を求めるための標識BOX（意見箱）を県内52箇所に設置しています。さらに、インターネットホームページにもコーナーを開設しています。

アドレスは
<http://www.road.dc.ogb.go.jp/index.html>

期間中は多数の方が展示コーナーを訪れ、意見を寄せられました。ご意見は今後の標識整備に反映していくこととしています。



経済産業部

「第20回伝統的工芸品月間国民会議沖縄地区大会」の開催

10月30日（木）「第20回伝統的工芸品月間国民会議沖縄地区大会」を開催しました。

これは、伝統的工芸品月間推進沖縄地区協議会（経済産業部事務局）と（財）伝統的工芸品産業振興協会との共催により、伝統的工芸品のすばらしさを県民の皆様に広く理解していただき、用と美を兼ね備えた伝統的工芸品の普及を目的に、毎年11月の「伝統的工芸品月間」事業の一環として取り組まれているもので、今年で20回目を迎えました。

同大会では、伝統的工芸品産業功労者等内閣府沖縄総合事務局長表彰と、伝統的工芸品月間図画・作文コンクール表彰が行われ、功労者等局長表彰では、吉本敏子さん（那覇伝統織物事業協同組合）、高江洲康信さん（壺屋陶器事業協同組合）、長山幸子さん（琉球びんがた事業協同組合）、兼島靖さん（壺屋陶器事業協同組合）の4名が伝統的工芸品産業の振興、発展への貢献が認められたとして、受賞されました。

図画・作文コンクール表彰では、図画の部で青山友里さん（具志川市立あげな小学校）の作品が、作文の部で金城恵里奈さん（南風原町立南星中学校）の作品が、それぞれ内閣府沖縄総合事務局長賞を受賞されました。

